

第2回琴浦町地方創生推進会議（結果）

日時：平成27年5月20日（水）19：00～20：35
場所：本庁舎 防災会議室

1. 参加者	25人
2. 欠席者	福山、和田、真山、安谷
3. 副町長挨拶	原案ができあがっていない状況だが、アンケート調査や人口動向の状況など、現在の状況を確認していただき、ご意見をいただきたい。
4. 内容	<p>●会長 ○委員 →事務局</p> <p>（1）琴浦町人口ビジョン策定に向けた人口動向分析・将来人口推計について → 事務局から説明</p> <p>● 数字の説明があったが、質問等あればいただきたい。</p> <p>○ p6 図表3では、2012年に社会増減*1がプラス10になっているが、p7の図表5ではプラス3になっているので、数字の確認をしていただきたい。 p9の図表8において、この数字をたすとその年の社会増減の数字になるものなのか。ほかの表との整合性も確認をとったほうがよい。 これは指摘となるが、p13の将来推計において、日本創成会議の社会移動（転入転出）の推計条件だが、一度7割に減るが、その後変わらないという想定であるので、確認して修正をしたほうがよい。 それと関連して、町独自の推計において、社会移動の条件は、創生会議と同じ条件で行ったものか。 → 創成会議と同じ条件である。</p> <p>○ p15の図表17とp16の図表18のシミュレーションで、人口減への影響度は社会増減のほうが自然増減*2より大きいとしているが、合計特殊出生率*3を人口置換水準*4まであげること、社会増減をゼロにすること、どちらも難しい条件であり、それらを比べることでどちらの影響度が大きいかは一概にいえないと思う。</p> <p>*1 転入数及び転出数による人口の増減 *2 出生数及び死亡数による人口の増減 *3 15～49歳の女性1人が生涯に何人の子供を産むかを表す数字 *4 人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準</p> <p>○ 地方創生がいわれはじめたきっかけは、約一年前の増田レポートで2040年には自治体の半数が人口減によって消滅の危機にあるということからである。特に、女性の20～39歳までの数が半減するのではないかとわれている。その年代の女性が増えれば子供の数も増えていくうえに、転入により社会増にもなる。琴浦町の20～39歳の女性数の推移は把握しているか。 → 5歳ごとの人口のデータはあるが、まとめたものはない。資料をまとめ人口ビジョンに反映させる。</p> <p>● 図表13、図表14で、年齢階級別の人口移動の推移が示してあるが、高校卒業又は大学卒業の時期に男女とも人口が多く流出しているのがわかる。 → 図表13、図表14は谷が深いほど人口の流出が大きく、山になれば流入していることを示している。数字の違いはあるが、同じような傾向であることが見て取れる。</p> <p>○ 図表13、図表14で、20～24歳→25～29歳の時期に人口の流入が増えるがその後また流出に転じている。その原因は分析しているか。 → 原因までは確認していない。</p> <p>○ 就職して何年か経過し、その生活が落ち着いたため、流入流出とも少なくな</p>

っていくと考えられるのではないか。

- 図表 6 において、高校卒業したときに人口流出が多いと考えられているが、この表では他の年代に比べて数字が少ないが何か原因があるのか。

→ この図表 6 は、琴浦町の住民基本台帳から転入数・転出数を集計したため、大学進学において住民票を移動させていない場合は数字に含まれていない。

そういったことも 15～19 歳の数字が少ないことのひとつの要因であると考えられる。

- 図表 5 において、2012 年に社会増となっているが、これは何か要因があるか。

→ きらりタウンなどの造成地へ移住された方が多かったなどの要因が考えられる。

- 子供を産む可能性が高い女性の流出を、いかに歯止めをかけるか、進学就職によって流出した人口をいかに琴浦町へ呼び戻すかが大事になるということである。

- 将来の人口数は、大正や昭和初期のときとあまり変わらないので、ただ人口が減っていくということだけでなく、人口構造などもあわせて考察してほしい。

→ 大正時代などの人口ピラミッドなどは把握していない。参考文献などを読むと、人口構造が違ってきているということがいわれている。

資料があれば、次回提示したい。

- 日本全国の話であるが、人口バランスがどう変わるかについて、現役世代が引退後世代をどれだけの割合で支えるかという例えがある。1960 年頃は 10 人で 1 人を支えていたものが、現在は 2.2 人で 1 人を支えるまで激減している。2040 年か 2050 年頃にこの数字は落ち着いてくると考えられているが、社人研の推計では、1.2 人で 1 人を支えると推定される。この数字は大都市などを含んでいるため、地方においてはそれより早くそのような数字になると考えられる。

- p5 の図表 1 で、老年人口は増えていく一方、年少人口は減少を続けている。子供を産むのが難しい状況、結婚しない方が多くなっていることと結婚しても子供の数を家庭で制限してしまうことがあると思う。

鳥取県の収入が少ないことも関係していると思うが、進学のことなどを考えると多くの子を育てていくことが難しいので、子育てに必要な収入を得るための施策が必要になっていくことと、教育に係る費用を軽減するような対策が重要であると思う。

(2) 町民アンケートの集計報告について

→ 事務局から説明

- 前回説明があったと思うが、どのくらいの数に送付したか。

→ 年代、地区などを考慮し、2,500 人をランダムに抽出している。

- 最終的にいつ頃このアンケートはまとまるか。

→ 事務局としては、5 月末くらいを期限としてとりまとめをしていきたいと考えている。

(3) 職員からの事業提案について

→ 琴浦町総合戦略の全体像の中の重要項目について、職員から提案を募集してまとめた資料である。現段階ではアイデアであるため、今後精査していくので、取りまとめた後に推進会議で協議をお願いしたい。

(4) その他

→ 地方創生の取り組みについて、多くの町民の方からご意見をいただくため、

	<p>6月に町内各地区で意見交換会の開催を検討している。都合がつけば出席していただきたい。</p> <p>また、推進委員のみなさんの意見についても、メールやファクシミリなどで事務局にいただければ検討するので、もしあればいつていただきたい。</p> <p>● 今後のスケジュールはどうなっているか。</p> <p>→ 6月末までに人口ビジョンをつくりあげたいと考えている。また総合戦略の骨子、個別具体的な実施事業ではなく、基本テーマ、重点項目までを記載したものづくり、9月末には総合戦略を策定したいと考えている。その過程で住民説明会や意見募集などを考えている。</p> <p>→ 前回の推進会議で、県外の人を対象としたアンケートを実施するか、他の団体が実施したものを参考と出来ないかというご意見があった。事務局で調べたところ、鳥取県が東京でイベントを実施した際にアンケートを行っており、その結果など入手できたら委員会に提示したい。</p> <p>○ 琴浦町で、地方創生に係る予算がどれくらいなのかもしわかれば教えていただきたい。</p> <p>→ 平成27年度については、地方創生に係る交付金が7,000万円ほど琴浦町に配分されている。来年度以降の予算については、国などから具体的なことが示されていないため把握していない。示された時点でお示しする。</p> <p>○ これは要望であるが、行政が意見を求めると、行政にこうしてほしいことが多くなるが、そういった意見ではなく、町民もできることを提言できるような形で意見を聞いてほしい。</p> <p>○ p17の部分については、今後考えられるということか。</p> <p>→ はい。</p> <p>● これから策定する人口ビジョンはどういったものか。国では、1億人の人口を確保するといった目標数字などがあがっているが、琴浦町もそのような目標をたてるのか。</p> <p>人口減少は不可避であるのでその減少に歯止めをかけるのか、それとも人口増をめざすのかなど、どのように取組んでいくのかわかりにくいと思う。</p> <p>○ 琴浦町の現状についてはよくわかったが、町外に住んでいるため、他の市町村との比較などがあればもっとわかりやすいし、具体的なビジョンなどを示していただければ、意見も言いやすい。</p> <p>→ 事務局として考えているのは、増やしていくことは一番の理想であるが、なかなか難しいと思っている。急激な人口減少は影響が大きいことから緩やかな人口減にしていくことが目標となっていくのではないかと考えている。具体的な人数についてはこれから検証していく。</p> <p>○ 鳥取県のUターン施策など人口減対策としてどのように取組んでいるのか。</p> <p>○ 県では総合戦略の骨子を2月に策定したところだが、様々なデータをたくさん集め、鳥取県の強みを見つけ、それをどうやって伸ばしていくかという視点で骨子を策定した。町単独で難しいことでも件と連携しながら取り組むこともできるので、そういったことがあれば県の方にも意見をお願いしたい。</p>
	<p>次回日程について</p> <p>→6月25日(木) 19:00から防災会議室で開催する。</p> <p>20:35 終了</p>